

市政に対する

一般質問

今定例会では、12人の議員が12月1日、2日、5日に一般質問を行いました。質問の中から、主なものを質問者順に掲載します。

一般質問とは、議案と関係なく市の行政事務の状況や将来に対する方針などをただすもので、市側は、質問に対し基本的な考え方や問題解決策について答弁します。

小林啓子議員

- 記念用つき婚姻届について
- 母と子どもを守る産前産後ケア（ネウボラ）について

本田謡子議員

- 自校方式の学校給食について
- 権現堂公園のバリアフリーについて
- 市主催の防災訓練について

大平泰二議員

- 生存権否定する市税徴収問題
- 民間橋上駅舎建設
- 市長及び議員の政治倫理観と監査委員の対応について
- 幸手市圏央道上高野周辺土地区画整理

青木章議員

- 幸手駅舎・自由通路及び西口区画整理について
- 東京オリンピックに向けた幸手市の対応について
- 中央商店会お客様専用駐車場について

松田雅代議員

- 「平成29年度予算編成方針」と財政の見通しについて
- 保育料基準額の見直しについて
- 内水改善対策の推進について

小林順一議員

- ドローン利用の災害時情報収集について
- 「引きこもり」に対し社会復帰支援について

小河原浩和議員

- 任期付職員の採用について市長に伺う
- 3回目の成人式について

宮杉勝男議員

- 放課後児童クラブの学校施設利用について

中村孝子議員

- トイレの洋式化について
- 西口土地区画整理事業について
- 市民との対話集会について

木村治夫議員

- 地域農業の振興について

武藤寿男議員

- 人口動態と財政の現状と将来について
- 農地の維持管理と転用について

大山重隆議員

- 第5次総振の策定時に「幸手市から転出、したい理由」の1位は「老後の生活に不安があるから」であった。また、厚労省調査で、要介護となった場合「自宅でいつまでも暮らしたい」と答えた高齢者、家族は80%以上であった。高齢者がいつまでも安心して自宅で暮らせるためには、2つの大きな柱が必要である。
①在宅医療を担ってくれる医師・診療所があること。
②いつでも自宅へ訪問して、看護・介護をしてくれるシステムが整備されていること。
- 現在、幸手駅西口、駅舎整備が行われようとしているが、「幸手市のまちづくり」の長期ビジョンの上で、これらがどのような位置付け、役割を果たすのか。

12月定例会

傍聴者			
44人の方が傍聴されました。			
議会インターネット中継のアクセス件数 インターネットを利用した議会中継 (ライブ及び録画)を行っております。			
10月	463件	11月	276件
12月	1990件	の方が視聴されました。	

3月定例会
のお知らせ

2月20日開会予定です。
詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.city.satte.lg.jp/>

議事を傍聴しませんか
議会では日常生活にかかわる条例や事業の予算などを審議し、決定しています。ぜひ、傍聴にお出かけください。

12月定例会 会期日程
11月30日（本会議） ・開会・会期の決定・報告事項 ・市長提出議案一括上程、提案理由説明
12月1日・2日・5日（本会議） ・市政に対する一般質問
12月9日（本会議） ・議案に対する質疑
12月12日（委員会） ・議案の委員会付託
12月13日（委員会） ・総務常任委員会
12月14日（委員会） ・文教厚生常任委員会
12月14日（委員会） ・建設経済常任委員会
12月22日（本会議） ・委員長報告、質疑、討論、採決 ・閉会

- それぞれの内容の詳細は会議録および市議会ホームページ（インターネット映像配信システム）でご覧になれます。
- 会議録は図書館、各公民館の図書コーナー、市役所の情報公開コーナー、または市議会ホームページで公開しています。
- 12月定例会の会議録は3月上旬頃公開予定です。



本田謡子議員

みんなにやさしい権現堂桜堤を

Q

毎年、桜の頃には大勢の方々が賑わう権現堂桜堤4号公園。車椅子では不便との声を聞き、私は公園管理事務所で車椅子を借り、人を乗せて体験してみた。確かにいくつかの問題点が見えてきた。

そこで、市として、バリアフリーの考え方から改善が必要と思われるものは、また、県にバ

A

権現堂4号公園は、桜まつり等で県内外から多くの観光客が訪れる公園である。



リアフリーに関する要望はあるのか伺う。

既存施設を都市公園にしていることから、車椅子で駐車場から堤へ行く通路が、一部急勾配な箇所があることや、案内・誘導表示が分かりにくい箇所があるので改善が必要と考える。

埼玉県に車椅子用通路の整備と誰もが必要な情報を得られるよう分かりやすい案内・誘導表示の設置を要望し、高齢者や障がい者等の誰もが利用しやすい施設整備を促進していく。

(建設経済部長)



小林啓子議員

記念用つき婚姻届の進捗状況は

Q

昨年6月議会の一般質問において、幸手市として記念用つき婚姻届を作成してはいかがかを質問した。

その後の進捗状況を伺う。

A

記念用つき婚姻届については、複写式として1枚を記念用とする方法と婚姻届とは別に婚姻記念証を交付する方

法を検討した。

複写式とする場合には、新たに複写式の用紙を作成する必要が生じることから、婚姻届を提出されたお二人の思い出に、ご夫婦の名前や婚姻日を記載した婚姻記念証を平成29年4月1日から交付することにした。

また、出生の記念としての出生記念証も同様に交付することにした。

(市民生活部長)



市長は政治倫理条例を遵守出来たか



大平泰二議員

Q

市長（議員時代も含む）の倫理条例（経営者が市長と2親等以内の企業との取引）に抵触する可能性のある件数とその総額。また、誓約書を提出したにも関わらず、長期に渡って遵守しなかった原因はなにか。さらには「倫理条例抵触」との監査委員からの指摘はあったのか、伺う。

A

公文書の保存年限から現存する平成23年度から平成28年9月末までの件数は、50件、総額246万9641円である。

遵守出来なかった原因は、平成18年10月の条例施行後、規定された用語の解釈や、各々の規定の運用について、認識が薄かったことが原因であり、大変申し訳なかった。

監査委員からの指摘については、例年実施している定例監査

および決算に係る審査等においても指摘はなかった。
（市長・総務部長）



幸手駅舎・自由通路および西口区画整理



青木 章議員

Q

駅舎、自由通路の設計変更やこの事業に対する交付金が減額されたことで心配している市民がいる。そこで、改めて橋上駅舎、自由通路が予定通りオープン出来るのか伺う。また、駅前広場付近が、駐車場ばかりにならないよう西口駅前には商店街が出来るよう市で整備すること。彦根市の「黒壁ス

A

橋上駅舎および自由通路は、予定通り平成31年3月末に完成する見込みである。西口駅前広場周辺の商店街の整備は、土地区画整理事業の推進に合わせ、駅に隣接した利便性の高い市街地形成を図るため駅

クエア」のようなテーマを持った街づくりをすること。調整池の位置等も再考すること。などを実現し「にぎわい」の有る街づくりを望むが、いかがか伺う。

前広場から西口停車場線の一部区間に隣接する街区については商業施設を誘導する用途地域の変更を行う。また、地権者の方と協議しながら景観づくりのための建築協定や地区計画の導入も視野に検討を行い、にぎわいのある西口の顔づくりを図って参りたい。

（建設経済部長）



市民の信頼を取り戻す来年度予算編成を



松田雅代議員

Q 今年度予算は、国費の財源不足分の一般財源への付替、地方創生では総額1億円におよぶ加速化交付金獲得に失敗するなど、市民の信頼を大きく失墜する事態が続いている。

国費動向の予見は不可との市の見解だが、本当に予見出来ないのか。地方創生事業への予算配分は。歯止めのかからない人

口減少を予算に反映させるための検証は。平成27年度決算で監査から指摘された「低執行率（93％）の是正」について、来年度予算編成を前に考えを伺う。

A 予算編成をする上で国・県等の動向等について最新の情報等により的確に把握し、また、交付金の見積りは、交付率の実績が大きく減となっていて

場合は近年の実績に合わせて積算することを指示した。また、

地方創生事業である「幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の施策については重点的に予算を確保するものとし、その他の事業についても重点プロジェクト事業の実施による総額予算を念頭に経費削減を最大限に検討し、予算計上することを指示した。

（市長）

ドローンを活用して災害時情報収集の提案



小林順一議員

Q 大規模地震や極地豪雨による浸水被害が懸念される。

こうした状況において、災害発生時に上空より現場の部分把握や全体の把握が可能となり、対策本部などに情報データがダイレクトに送信される確かな対応が期待される。

現在の情報収集に課題があれば

ば伺う。ドローンを活用して災害時情報収集を提案するが所見を伺う。

A ドローン活用は災害だけではなく、幅広い分野での活用が想定されるが所見を伺う。

河川による洪水や直下型地震時には、職員自身の参加が難しくなるため、人員の確保が課題となる。

災害時の情報収集にドローンの活用は有効であると考えてお



り、来年度に機材を購入し、操作に必要な講習に職員を参加させ、ドローンを活用できる体制を整えたい。

平常時でのドローンの飛行については、航空法等により規制があるが、広い分野での活用も関係機関と協議しながら導入していきたい。

（市長・市民生活部長）

即戦力としての任期付職員の採用を促す



小河原浩和議員

Q 「幸手市一般職員の任期付職員の採用等に関する条例」が本年4月に施行され、職員採用の幅が広がった。

弁護士をはじめ、社会福祉士や精神保健福祉士・保健師などの高度な資格を有する人や、広報・編集、販売促進・マーケティングなどの専門的な知識、経験を持った人など、即戦力とし

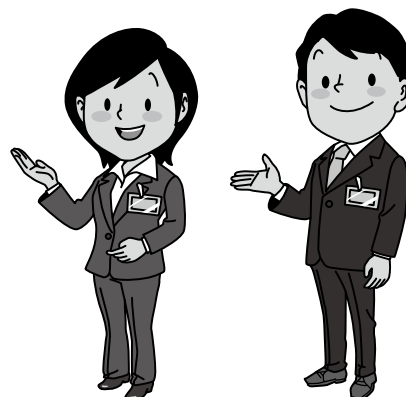
て、任期付職員の採用を積極的に行ってはどうかと思うが、市の考え方を伺う。

A 幸手市では、毎年度、組織定数等の要望調査並びにヒアリングにより、必要としている専門的な能力・経験などを調査・把握している。

弁護士等をはじめとする専門的な知識・経験を持った即戦力となる職員の採用の必要性については、組織定数等の要望調査

並びにヒアリングを通じて検討してまいりたい。

(市長)



放課後児童クラブの学校施設利用



宮杉勝男議員

Q 現在放課後児童クラブを利用して、雨が降ると校庭を使えなくなるので、室内があった返している所が数か所ある。

そこで、雨の日に限ってで結構なので、体育館を使わせてあげることができないかという観点から次の事を伺う。
(1)各放課後児童クラブを利用し

ている児童の推移を伺う。
(2)協定書の内容はどのようなになっているかを伺う。
(3)どうすれば、その内容を変更することができるか伺う。

A 放課後児童クラブを利用する児童の数は、平成24年度6ヶ所260人、平成25年度6ヶ所270人、平成26年度7ヶ所286人、平成27年度7ヶ所308人、平成28年度9ヶ所352人と、年々増えている。

市と放課後児童クラブとの協定書では、使用する施設の範囲や施設等の使用などについて定めているが、雨天時等の体育館の使用については記載はなく、今後、教育委員会、学校と協議し、協定書の内容について変更していきたい。

(健康福祉部長)



西口区画整理の重要性と確実な財源推進計画



中村孝子議員

Q

6月議会でも区画整理は高い優先順位でやるとの答弁であった。しかし、重点プロジェクト資金計画でも状況は大変厳しい。平成35年迄の10年間の執行予定は42%であり、35年から完了年度の42年度までの7年間で残り58%を執行することになる。意欲があっても資金がともなわなくては絵に描いた

A

餅と同じ。不可能な事はそれも含め、市民には正しい情報発信をすべきである。完了に向け、当事業の重要性と確実な財源・推進計画を再度市長に伺う。

源については、社会資本整備総合交付金、公共施設管理者負担金、保留地処分金、地方債および市単独費を充てる。平成36年度以降については市全体の財政運営を勘案しながら可能な限り財源の手当てに努め、平成42年度の事業完成を目指す。

(市長)

活力ある幸手経済をおこす農業振興策を問う



木村治夫議員

Q

平成27年2月1日農林業の国勢調査である農林業センサスが実施され幸手市の統計情報が発表された。市の農業生産・就業構造、農地土地資源等の実態とその変化を検討し地域農業振興に反映することが重要と考える。

そこで農業センサスの集計結果について伺う。またその情報

A

を分析し、市として目指す施策について具体的に伺う。

平成29年度、国の米生産目標事業が廃止となる、現行実施されている単独水田農業構造改革対策への影響または対策を伺う。

また、大規模経営体数が増加した。このような中、市としては多様な担い手による農産物の安定供給と収益性の高い農業を目指す。

生産調整の廃止で達成者への補助金が減少し所得の低下を招くが、動向を注視し、加工米や飼料米など戦略的な作物への補助金の充実等を検討していく。

(建設経済部長)



幸手市の人口動態と将来の事業と財政は



武藤寿男議員

Q 人口減少は平成7年をピークに年々減少している

が、このことは、生産年齢人口の減少による市税の減収、高齢者人口の著しい増加による扶助費等の民生費の大幅な増加となっている。

また、出生数の減少は、依然として続き、ここ20年間の合計特殊出生率は1・04と低くな

っているが、将来の市の推計人口の減少幅は、他の機関の推計よりも高くなっているが、果たして可能か。

更に、今後10年間の事業と財政の見通しはいかがか、市の見解を伺う。

A

幸手市人口ビジョンにおいては、合計特殊出生率を人口置換水準である2・07に向け改善させるという仮定で推計しているが、現実には就職

や転職、結婚に伴う女性の転出が多い状況のため、人口減少の対策としては引き続き様々な施策の展開が必要となる。

今後の事業と財政見通しは、「重点プロジェクト資金計画」に「小学校エアコン賃貸借事業」、「公共施設等総合管理計画」に基づく大規模改修・更新に係る費用を加えたものが必要な財政需要額の推移と見込んでいる。

(総務部長)

いつまでも安心して自宅で暮せる医療介護を



大山重隆議員

Q

幸手市の高齢化率も30%を越え超高齢化社会となっている。また、高齢者夫婦のみ、高齢者独居の世帯も増えており、家族・地域で支えていく事も難しくなってきた。多くの市民も老後の暮らしに不安を持っており、いつまでも自宅で安心して暮らせる医療・介護体制(ケアシステム)の実現が

求められている。ケアシステムの柱となる在宅医療、いつでも自宅へ訪問できる看護・介護体制の整備が必要である。実現に向け全市を挙げ早急に取り組むべきである。

A

在宅医療の整備は、北葛北部医師会と協働で進めており、今後も、関係機関に協力をお願いする。

市が指定する地域密着型の定期巡回・随時対応型訪問介護看

護は、現在も久喜市にある事業所を1ヶ所指定し、幸手市民が利用することはできるが、市民の利便性をさらに高めるために、市内での開設を目指す。地域包括ケアシステムの実現に向けては、先進事例を参考にし、今後取り組み組んでいく。

(健康福祉部長)

